

第 3 期長崎市教育大綱 (素案)

はじめに①（大綱策定の経緯など）

修正なし

- 平成27年4月1日に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」が施行され、地方公共団体の長は、地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱（以下「教育大綱」という。）を定めることとされました。
- 長崎市は、まちづくりの指針である「長崎市総合計画」に基づき、未来の長崎を担う人材育成を積極的に進めるにあたり、長崎市における教育に関する方向性を明確にすることを目的として、平成29年1月に「長崎市教育大綱」を策定しています。
- 「長崎市教育大綱」では、長崎市における生涯学習を含めたあらゆる世代に向けた教育政策の考え方を、「めざすすがた」により表現し、共有・連携を図ることで、長崎市における教育、学術及び文化の振興を推進していくこととしています。

はじめに②（大綱を取り巻く環境）

修正なし

- 平成29年の第1期長崎市教育大綱の策定以降、少子・高齢化の進展、Society5.0の実現に向けたAI（人工知能）やI o T（Internet of Things）などの先端技術の急速な進展、多様な人材を活かすための働き方や雇用制度の見直し、コロナ禍による生活行動、価値観の変容など、社会・環境が大きく変化し、将来予測が困難な時代を迎えています。
- 子どもたちを取り巻く環境を見ると、子どもの貧困の問題や、様々な体験の場の減少、地域の人間関係の希薄化など様々な変化が生じています。さらには、人生100年時代の到来が予測されており、長い人生を生きるためには、生涯を通して知識と時代の変化に応じたスキルを身に付けることが必要となってきました。
- このように変化しつづける日本や世界の状況に柔軟に対応し、次の時代を担う人材の育成に向け、教育の重要性がより高まっています。

はじめに③（次期大綱に求められるもの）

- そのなかで、第2期における取組みの検証を行うとともに、まちづくりの方針である「長崎市総合計画」、国が示す「第4期教育振興基本計画」や、「学習指導要領」の内容等を踏まえ、必要な見直しを行い教育大綱の改定を行いました。
- 本大綱に掲げる教育政策の考え方を市民の皆様に周知したうえで、学校、家庭、地域等の様々な主体と連携して「ひとを育てる」ためのひとづくり・環境づくりに取り組み、未来を創る子どもたちが、健やかな心と体、確かな学力、長崎を愛する心を身につけ、だれもが生涯を通じて学び続けられる社会の構築を進めていきます。

総合教育会議の意見

人材育成⇒

「ひとを育てる」ためのひとづくり・環境づくり

基本理念・長崎の未来を創るひとづくり

修正なし

- 異国情緒漂う独特の文化を持ち、長い歴史の中で様々な経験をしてきた長崎のまちは、それぞれの時代において、まちに関わる多くの「ひと」が創り、受け継いできたまちです。
- これからも、長崎が希望に満ちた魅力あるまち、また、日本や世界に貢献するまちであり続けるためには、これからのまちを創り、次の世代にしっかりと引き継ぐことができる「ひと」を育むことが最も重要です。
- そこで、長崎市の教育に関する方向性を示す教育大綱の基本理念を「長崎の未来を創るひとづくり」としました。

ひとづくりの基本姿勢 つながりと創造で未来の長崎へ①

修正なし

- **ひとづくりは、学校や行政だけでできるものではありません。**多くの主体同士がつながり合い、個々では生み出せない大きな力や新たな発想を活かして取組みを進めることで、より大きな成果につなげることが期待できます。

総合教育会議の意見
「地域全体で子育て」
⇒既存の文章の中に意味を含むものとして整理。

- 長崎のまちが一体となって、一人ひとりに向き合い、個性や課題に応じたひとづくりに取り組みながら、長崎のまちを未来へと引き継いでいきます。

ひとづくりの基本姿勢 つながりと創造で未来の長崎へ②

第2期教育大綱

(1)学校・家庭・地域・行政等の様々な主体同士が、教育・福祉・子育て・平和等のあらゆる分野においてつながり合い、多くの市民が当事者として関わることで、長崎のまち全体が一体となったひとづくりに努めます。

(2)つながりによって創造される力や発想を活かし、健やかな育ちを支え、学びを深めるための新たな仕組みの構築や長崎らしい多様な体験活動の充実を図ることで、時代の変化に対応しながら、自ら学び、考え、行動し、未来を切り拓くことができるひとづくりに努めます。

(3)育まれた人材が長崎のまちを支え、さらに次の時代を支える人材を育むことで、長崎のまちが未来へつながるひとづくりに努めます。

(4)持続可能で、誰一人取り残さない社会の実現にあたり、その達成に向けたひとづくりに努めます。



第3期教育大綱

(1)学校・家庭・地域・行政等の様々な主体同士が、教育・福祉・子育て・平和等のあらゆる分野においてつながり合い、**一人ひとりの市民**が当事者として関わることで、長崎のまち全体が一体となったひとづくりに努めます。

所管意見

「多くの市民」→「一人ひとりの市民」とすることで
自分事ととらえてもらう表現へ

(2)つながりによって創造される力や発想を活かし、健やかな育ちを支え、学びを深めるための新たな仕組みの構築や長崎らしい多様な体験活動の充実を図ることで、時代の変化に対応しながら、自ら学び、考え、行動し、未来を切り拓くことができるひとづくりに努めます。

(3)育まれた人材が長崎のまちを支え、さらに次の時代を支える人材を育むことで、長崎のまちが未来へつながるひとづくりに努めます。

(4)持続可能で、誰一人取り残さない社会の実現にあたり、その達成に向けたひとづくりに努めます。

めざすすがた

1 心身ともに充実し、自ら学び、
考え、行動するひと①

第2期教育大綱

- 社会環境が大きく変化する中であっても変わらない価値として、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の3つをバランスよく身に付け、社会的に自立する必要があります。
- また、幼児期からの教育を通じて、広い視野と、自分の考えをしっかりと持ち、自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、責任を持って行動することで、自分で解決する力を育む必要があります。



めざすすがた

1 **心と身体を育み**、自ら学び、考え、
行動するひと①

所管意見

「心身ともに充実し、」は体の不自由な方にとって、違和感があるのではないか。

⇒所管提案を踏まえて検討し、「心と身体を育み、」とした

第3期教育大綱

- 社会環境が大きく変化する中であっても変わらない価値**である**、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の3つをバランスよく身に付け、社会的に自立する必要があります。
- また、幼児期からの教育を通じて、広い視野と、自分の考えをしっかりと持ち、自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、責任を持って行動することで、自分で解決する力を育む必要があります。
- **学校と地域や様々な施設**（図書館・公民館・科学館など）が連携することで **子どもが自ら学ぼうとする意欲を持つことができるような環境を整える必要**があります。

所管意見（振り返り）

学校と様々な施設との連携

めざすすがた

1 心と身体を育み、自ら学び、考え、行動するひと②

第2期教育大綱

1. 習得した基礎的な知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力などの能力及び、主体的に学習に取り組む態度を身に付けたひとを育てます。
2. 規則正しい生活習慣、食習慣や体力向上につながる運動習慣などを身に付け、心身ともに健やかなひとを育てます。
3. 自分の考えや問題意識を持つことで、自ら課題を見つけ、課題に対する最善の解決策を導き出し、責任を持って行動するひとを育てます。



第3期教育大綱

1. 習得した基礎的な知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力などの能力及び、主体的に学習に取り組む態度を身に付けたひとを**育みます**。
2. 規則正しい生活習慣、食習慣や体力向上につながる運動習慣などを身に付け、心身ともに健やかなひとを**育みます**。
3. **多様な情報があふれる中で**、自分の考えや問題意識を持ち、自ら課題を見つけ、課題に対する最善の解決策を導き出し、責任を持って行動するひとを**育みます**。

総合教育会議の意見

「認知バイアスや確証バイアス」の意見から追記。

所管意見

「育てます」が指導的、義務的に感じる人もいるのでは。
⇒「育みます」に変更【全めざすすがた 共通】

※バイアス＝先入観や偏り。

めざすすがた

1 心と身体を育み、自ら学び、考え、行動するひと③

第2期教育大綱

4. Society5.0※を見据え、ICT※を基盤とした先端技術を効果的に活用し、主体的・創造的に変化の激しい時代を生きぬく資質・能力を持つひとを育てます。
5. 家庭の社会経済的な背景や、障害の状況や特性及び心身の発達の段階など、子どもの発達や学習を取り巻く個別の教育的ニーズを把握し、安全・安心に学ぶ環境を整えることで、心身ともに健やかなひとを育てます。



第3期教育大綱

4. ICT※を基盤とした先端技術を効果的に活用し、主体的・創造的に変化の激しい時代を生きぬく資質・能力を持つひとを**育みます**。
5. 家庭の社会経済的な背景や**住んでいる地域**、障害の状況や特性及び心身の発達の段階など、学習を取り巻く個別の教育的ニーズや子どもの発達状況を把握し、安全・安心で**平等に**学ぶ環境を整えることで、心身ともに健やかなひとを**育みます**。

所管意見（振り返り）

- ・学習を取り巻く環境の一つとして「住んでいる地域」を追記。
- ・「地域等による格差がないこと」⇒平等な学びとして表現。

6. 多様化する学びのあり方を尊重し、あらゆる児童生徒に学びの機会を保障することで社会的に自立したひとを育みます。

後期基本計画素案

「多様な学びの機会確保」を新規で項目立て。

めざすすがた
2 生涯を通じて、
意欲的に学び続けるひと①

第2期教育大綱

- 力強く生き抜いていくための能力を身につける必要があります。新たなことを学び続けるとともに、誰もが生涯を通じていきいきと学び続けられるよう、学びの環境を整える必要があります。



めざすすがた
2 生涯を通じて、学び続けるひと①

所管意見「意欲的に学び続ける」では表現が強く「学びたい人」を狭めているように感じられる。

第3期教育大綱

- 誰もが生涯を通じていきいきと学び続けることは、より豊かな人生を送るためにとっても大切です。楽しく学びながら自らの学びに主体的に取り組む力やコミュニケーション能力など試験だけでは測ることができない能力を身につけるなど、新たなことを学び続けながらウェルビーイングを向上させ、幸福や生きがいにつなげていくことが求められています。学んだことを活かして活躍できる場を充実させることで、更に学ぶ意欲が高まるなどの好循環につながります。

所管意見

生涯学習の目的や、中央教育審議会などにおける「学びを地域に還元する考え」の表現を踏まえた表現へ。

総合教育会議の意見

- ・「非認知能力を育む（テストで測ることができない能力）」をふまえ追記。
- ・「ウェルビーイング」を追記。
- ・「これからまちづくりに協力してみようとか、なにか学ぼうとしたときに活躍の場や学べる場があるような視点も入れてほしい。」

※ウェルビーイング＝身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念

めざすすがた 2 生涯を通じて、学び続けるひと②

第2期教育大綱

1. 生涯を通じて、学び続ける意欲を持ち、実践していくひとを育てます。
2. 生涯を通じたスポーツ・レクリエーションや芸術文化に触れる体験などにより、豊かな心と健やかな体をもつひとを育てます。
3. 刻々と変化する社会に対応し、必要となる新しい知識やスキルを身に付け、新たなことに挑戦するひと、新たな価値を創造するひとを育てます。



第3期教育大綱

1. 生涯を通じて、学び続ける意欲を持ち、**学びを実践するひとを育みます。**
2. 生涯を通じたスポーツ・レクリエーションや芸術文化に触れる体験などにより、豊かな心と健やかな体をもつひとを**育みます。**
3. **SNSなどに関する情報リテラシー教育や金融教育などを通し、**刻々と変化する社会に対応するために必要となる新しい知識やスキルを身に付け、新たなことに挑戦するひと、新たな価値を創造するひとを**育みます。**

所管意見

表現の明確化のため表現の補足

総合教育会議の意見

「大人の情報の学び（情報リテラシー教育）」
「金融教育」を追記

※リテラシー＝特定の分野に関する知識や理解力、そしてそれを活用する能力

めざすすがた

3 多様性を認め合い、思いやりの心を持ち、支え合って生きるひと

- ひとは誰もがかけがえのない存在であり、また、社会で生活していく上では、様々な個性、生き方、考え方をを持った人と関わる機会が数多くあることから、まずは一人ひとりが自分のよさや可能性を認識するとともに、お互いを認め合うことにより、人と人との絆で結ばれ、共に支え合って生きていくことが必要となります。

総合教育会議の意見

「人権感覚を育む」

⇒既存の文章の中に意味を含むものとして整理。

1. 命の大切さを実感し、自分のことも他人のことも大切にするひとを**育みます**。
2. 人種、民族、国籍、性別、年齢、障害の有無、思想、性自認や性的指向など自分とは異なる個性や生き方、考え方を認め、尊重できるひとを**育みます**。
3. 他人との信頼関係を築くことで、助け合い、支え合い、協働できるひとを**育みます**。

めざすすがた

4 国際性豊かで、持続可能な世界の実現に貢献するひと①

第2期教育大綱

- 社会経済のグローバル化の進展の中においては、日本だけでなく、他国の歴史や文化についても理解を深め、自ら進んで外国の人と交流できる国際感覚を養い、長崎が持つ世界的な価値を発信します。
- また、貧困や飢餓、環境破壊など、世界中が抱える様々な問題の解決に向けたSDGs※（持続可能な開発目標）の達成に向け、自ら当事者として主体的に参加するなど、グローバル※な視点を持つことが必要になります。



第3期教育大綱

- 社会経済のグローバル化の進展の中においては、日本だけでなく、他国の歴史や文化についても理解を深め、自ら進んで外国の人と交流できる国際感覚と**言語能力**を養い、長崎が持つ世界的な価値を発信します。
- 所管意見（振り返り）**
「英語力の向上」⇒「言語能力」の表現で追記。
- また、貧困や飢餓、環境破壊など、世界中が抱える様々な問題の解決に向けたSDGs※（持続可能な開発目標）の達成に向け、自ら当事者として主体的に参加するなど、グローバル※な視点を持つことが必要になります。

めざすすがた

4 国際性豊かで、持続可能な世界の実現に貢献するひと②

修正なし

1. 外国の文化や考え方を理解し、外国の人々との交流や共生を通して、社会に貢献するひとを育みます。
2. 長崎が持つ世界的な価値や魅力を国内外に発信するひとを育みます。
3. 世界中の人々と連携して持続可能な世界の実現に貢献するひとを育みます。

めざすすがた

5 被爆の実相を継承し、平和の実現に貢献するひと①

第2期教育大綱

- 原爆被爆から75年が経過し、被爆者のいなくなる時代が現実となりつつある中、被爆体験を被爆者から直接継承することが難しくなっていることから、被爆の実相を正しく理解し、次の世代に確実に継承する必要があります。
- 世界中の人々の、核兵器廃絶や平和に対する考え方は様々であることから、平和の実現に向けては、それぞれの考え方を理解しながら、世界中の人々と対話することや、平和のメッセージを発信していくことが必要となります。



第3期教育大綱

- 原爆被爆から80年が経過し、被爆者のいなくなる時代が現実となりつつある中、被爆体験を被爆者から直接継承することが難しくなっていることから、被爆の実相を正しく理解し、次の世代に確実に継承する必要があります。
- 世界中の人々の、核兵器廃絶や平和に対する考え方は様々であることから、平和の実現に向けては、それぞれの考え方を理解しながら、世界中の人々と対話し、**継続的に平和の創造に努める**ことや、平和のメッセージを発信していくことが必要となります。

総合教育会議の意見
「平和の創造」の追記。

めざすすがた

5 被爆の実相を継承し、平和の実現に貢献するひと②

第2期教育大綱

1. 被爆の実相や体験を学び、次の世代に伝えることができるひとを育てます。
2. 核兵器廃絶のメッセージを世界に向けて発信することができるひとを育てます。
3. 世界の現状を知り、平和とは何かを考えることができるひとを育てます。
4. 平和な世界の実現に向けて国、人種、宗教、文化の違いを認め、相互理解のもとに対話や議論をすることで、身近に信頼を生み出すことができるひとを育てます。
5. 日常の中に平和の文化を根付かせ、その文化をひろげるひとを育てます。



第3期教育大綱

1. 被爆の実相や体験を主体的に学び、次の世代に伝えることができるひとを育みます。
2. 核兵器廃絶のメッセージを世界に向けて発信することができるひとを育みます。
3. 世界の現状を知り、平和とは何かを考えることができるひとを育みます。
4. 平和な世界の実現に向けて国、人種、宗教、文化の違いを認め、相互理解のもとに対話や議論をすることで、信頼関係を生み出すことができるひとを育みます。
5. 日常の中に平和の文化を根付かせ、その文化をひろげるひとを育みます。

所管意見（振り返り）

「主体的な平和教育」の意味を追記。

めざすすがた

6 長崎を愛する心を持ち、まちを支え、未来へつなぐひと①

第2期教育大綱

- 海や山に囲まれた豊かな自然、出島に代表される海外との交流の歴史、和華蘭文化や世界遺産などへの関心を高め、郷土長崎に誇りを持ち、愛する心を育むとともに、その個性を大切に守り、磨き上げながら、次の世代にしっかりと継承していく必要があります。
- 人口減少、少子化・高齢化の進展やライフスタイルの多様化等の影響により、私たちの暮らしにも大小様々な変化が起きていくことが予想される中、誰もが未来に希望を持ち、暮らし続ける魅力にあふれた長崎のまちであり続けるためには、環境の変化に対応しながら、それぞれの地域や産業を支える人材の育成が不可欠です。
- 地域で育まれた一人ひとりが、当事者意識を持って、地域で助け合う意識を高めることで、自ら地域を支えるとともに、次の世代を担うひとづくりに努めることにより、世代を超えた地域の活性化につながります。



第3期教育大綱

- 海や山に囲まれた豊かな自然、出島に代表される海外との交流の歴史、和華蘭文化や世界遺産などへの関心を高めるとともに、**さまざまな人々との交流を通して、長崎の良さを再発見することで**、郷土長崎に誇りを持ち、愛する心を育みます。そして、その個性を大切に守り、磨き上げながら、次の世代にしっかりと継承していく必要があります。

総合教育会議の意見 「地域コミュニティと連携したふるさと教育」「長崎の外から見た視点」の意見から追記。

- 人口減少、少子化・高齢化の進展やライフスタイルの多様化等の影響により、私たちの暮らしにも大小様々な変化が起きていくことが予想される中、誰もが未来に希望を持ち、**長崎に暮らすことを楽しみ、住み続けたいと思ってもらうためには**、環境の変化に対応しながら、それぞれの地域や産業を支える人材の育成が不可欠です。

総合教育会議の意見
「地域幸福度（長崎に住むことの価値）」、「長崎らしさの分析とアピール」
「若者の視点で長崎の楽しみ方」は既存の文章の意味に含まれると整理。

- 地域で育まれた一人ひとりが当事者として、地域で助け合う意識を高めることで、自ら地域を支えるとともに、次の世代を担うひとづくりに努めることにより、世代を超えた地域の活性化につながります。

めざすすがた

6 長崎を愛する心を持ち、まちを支え、未来へつなぐひと②

第2期教育大綱

1. 長崎の豊かな自然や歴史、文化に愛着を感じ、次の世代に継承するひとを育てます。
2. 様々な世代とふれあい、地域との関わりを大切にするひとを育てます。
3. 地域を守り、支える意識を持ち、自ら行動できるひとを育てます。



第3期教育大綱

1. ふるさとである長崎の豊かな自然や歴史、文化、ひとの温かさを知り、愛着を感じ、次の世代に継承するひとを育みます。

総合教育会議の意見

- ・「ふるさと教育」の意味を含めた表現として追記。
- ・「親切度ランキング」⇒「ひとの温かさ」の表現として追記。

2. 様々な世代とふれあい、地域との関わりを大切にするひとを育みます。
3. 地域を守り・支える一員であるという意識を持ち、自ら行動できるひとを育みます。

所管意見（振り返り）

「自らが地域を守る」「地域を支える一員」としての地域における意識を追記。

めざすすがた

6 長崎を愛する心を持ち、まちを支え、未来へつなぐひと③

第2期教育大綱

4. 社会的・職業的に自立し、主体的に社会と関わり貢献するひとを育てます。
5. 次の世代を担う人材を育成することができるひとを育てます。



第3期教育大綱

4. 社会的・職業的に自立し、主体的に社会と関わり貢献するひとを**育みます**。
5. 次の世代を担う人材を育成することができるひとを**育みます**。
6. **長崎というまちの面白さを見つけ、まちを楽しみ、更なるまちのワクワクを創っていくひとを育みます。**

総合教育会議の意見

- ・「若者に長崎にとどまってもらうため、長崎の楽しみ方を大学生などから意見をもらってはどうか。」
 - ・「子どもたちが気付いていない長崎の魅力」
 - ・「長崎のWA!で広げようとしている『まちの面白さ』」
- ⇒項目を新規でたてて追記。

大綱の期間

- 長崎市第五次総合計画「後期基本計画」との整合性を確保するため、同計画の計画期間にあわせ、令和8年度から令和12年度までの5年間とします。

長崎市教育大綱の位置付け①

修正なし

- 地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、すべての地方公共団体に、地方公共団体の長及び教育委員会により構成される「総合教育会議」が設置されることとなり、「教育大綱」を定め、又は変更する場合は、当該会議において協議することとされており、長崎市教育大綱は、長崎市総合教育会議における協議を経て策定しました。
- 現在、長崎市は、長崎市のまちづくりの指針である「長崎市第五次総合計画」のめざす将来の都市像の実現をめざしており、未来の長崎を担う人材の育成に向け、市長と教育委員会が、本市教育行政のめざすすがたや、教育政策に関する方向性等を共有し、連携を図るとともに、効率的・効果的に教育行政を推進していくこととしています。

長崎市教育大綱の位置付け②

